

山口市長 渡辺純忠様

山口県立大学南キャンパス跡地利用について提案書

令和3年3月24日

みやの地域づくり協議会





目次

山口市&宮野&山口県立大学	1
現在の山口県立大学敷地	2
子ども達が戻って来たい“宮野“にするために	3
山口県立大学南キャンパス跡地利用について提案	4~5
ワークショップでの「思い」について	6
宮野地域の課題“負の要素”を探る	7~8
跡地をより有効に利用するために	9~11
具体的な皆の“思い”	12~14



宮野地区は、旧山口市の最北部の山口盆地の頭部にあたり、東西約6km、南北約9.6kmの約38km²の面積を持つ旧市内では広い地域です。南北に国道9号線と国道262号線が走り山陰地方と山陽地方を結んでいます。また、東へは国道376号線が仁保・徳地・周南へと繋がる交通の要所となっています

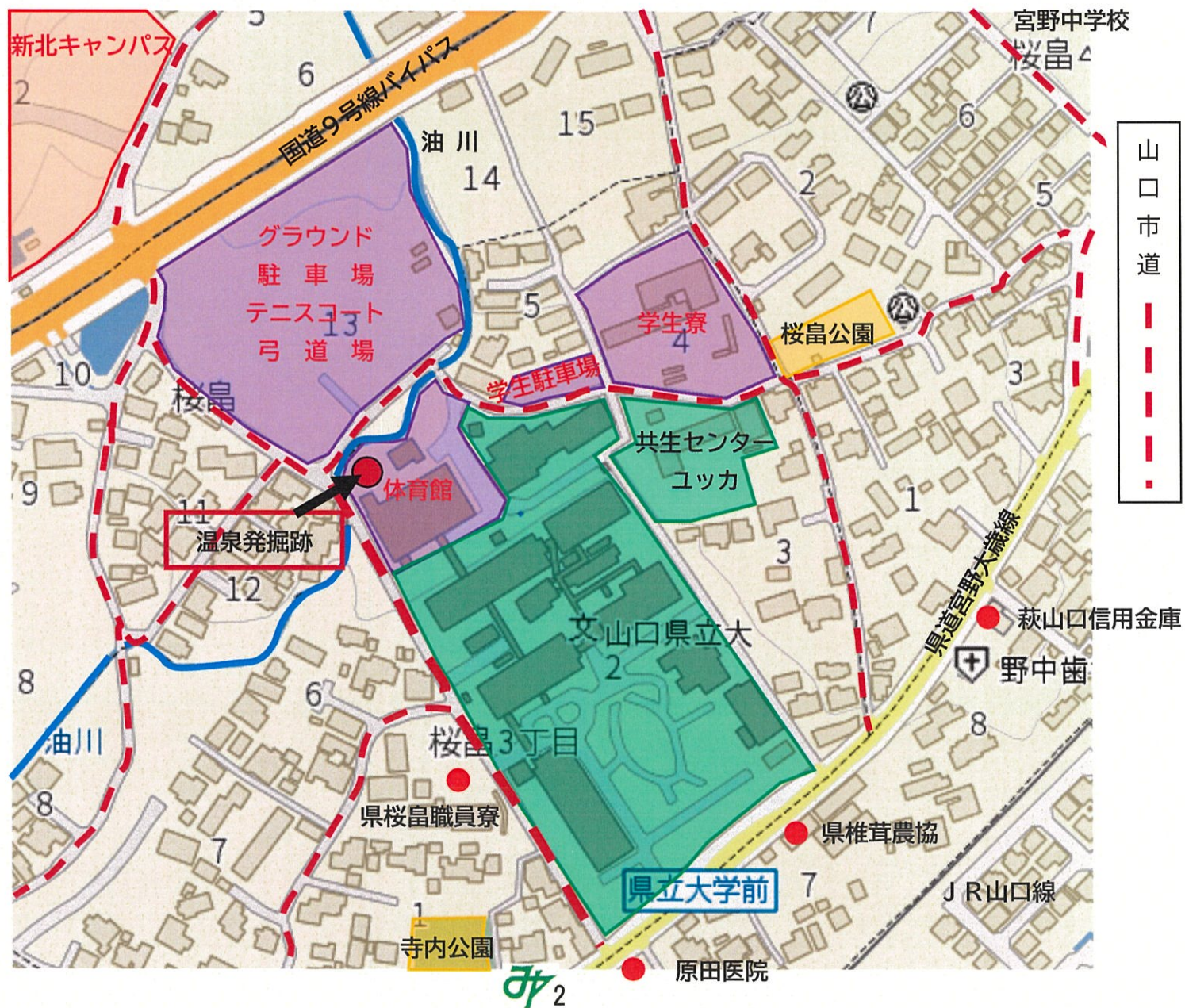
山口市&宮野 &山口県立大学

新北キャンパス

現南キャンパス



現在の山口県立大学敷地



～子ども達が戻って来たい“宮野”にするために～

子どもたちが帰って来たい “宮野” 安心して住める “宮野” 住んでみたいと皆が思う “宮野”

現在の“宮野”はどうだろうか？ 地域の課題は山積み！！ どのように解決していくか！ 皆で知恵を出し合おう！

「地域課題の解決」&「山口県立大学跡地利用」をリンクさせてみんなで真剣に考えてみよう～と、第1回『宮野の未来を考えよう』ワークショップを開催したのが平成29年2月でした。皆さんの「思い」を聞いてみよう企画したところ、地域から24名の参加があり、現状を認識しそれぞれの「ゆめ・希望」を語ってもらいました。

当日は、高齢者が主体となりましたが、やはり「買い物するところがない」「歩いて買い物に行くところがない」「現物を見て、触って買いたい」「交通の便が悪い」等々不満が噴出しました。

では、魅力ある宮野にするために、どのようなものが宮野に必要なのか？

宮野の中心に位置する広大な「山口県立大学南キャンパス」が将来どのように利活用されるかは、“宮野”にとっても山口市中心部を含めた北部地域の将来に大きく影響することは、参加者全員の一致した意見でした。

本会では、その後「宮野中学校3年生」「県立大学生」「宮野幼稚園保護者」等々の多世代に渡りワークショップを開催し、皆さんの「思い」を語っていただきました。

「山口県立大学南キャンパス跡地利用について」宮野地域として提案いたします

宮野地区の「生活環境の改善」を図る

〈全ての課題に共通する〉

子育てに優しい街づくり

高齢者に優しい街づくり

市立宮野幼稚園・三の宮保育園の統合設置
「集える交流の場」づくり（カフェ・足湯）
「熟年力」の活用

買い物環境整備

歩いて買い物に行ける場づくり
生鮮食品や日用雑貨等購入できる複合施設
子どもから高齢者までが楽しめる施設

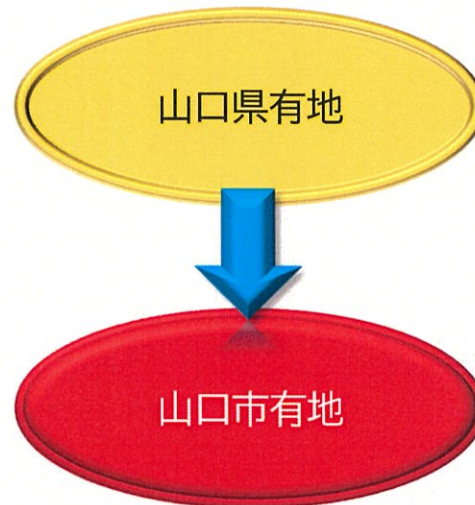
交通網の整備

山口市北部地域の交通の拠点づくり
「バスターミナル設置」
中心部及び市外への移動手段を確保

この提案書は、宮野地域の諸課題を再認識し、多世代にわたる「思い」を宮野地区としてまとめました。

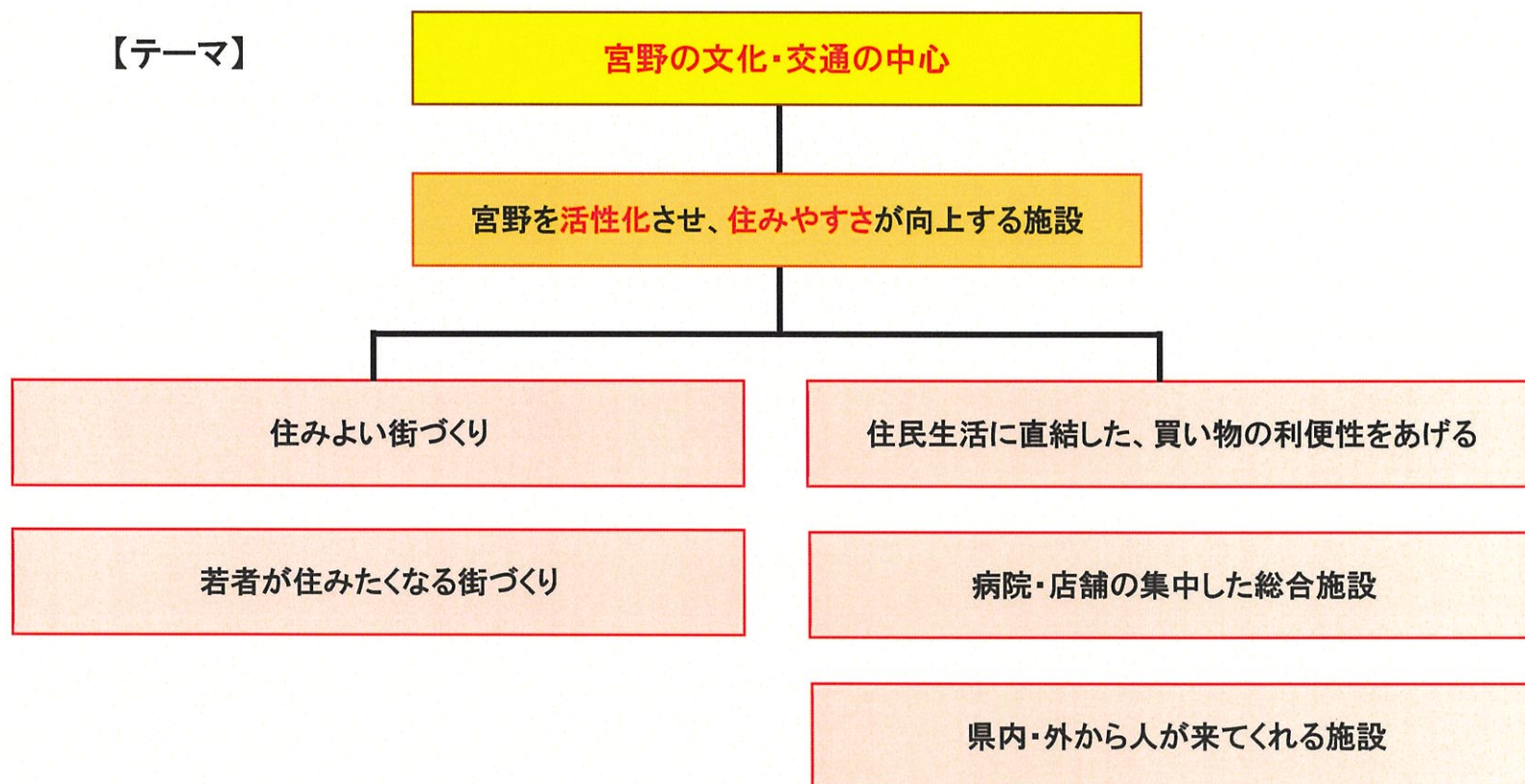
山口県立大学南キャンパス敷地は、山口県有地ではありますが、地域としては山口市が譲り受け、市北部の拠点として経済、福祉及び交通の拠点として開発していただきますよう希望いたします。

市役所内に専門部署を創設し、「宮野地域の活性化」及び「市北部地域の拠点づくり」を考えていただきたいと提出いたします。なお、今後の山口県との交渉状況等の情報共有をお願いいたします。



ワークショップでの「思い」について

【テーマ】



【宮野地域の課題～負の要素～探ってみます】

《重点的なもの》

- ◆少子・高齢化が進んでいる
- ◆買い物弱者が増加している
- ◆交通網が不十分である
- ◆人口減少傾向にある
- ◆若者の遊ぶ所がない 等々

課題解決

- 山口県立大学跡地を課題解決のために活用する (施設等設置)

◆少子・高齢化が進んでいる

《少 子》

近年の宮野小学校の「入学児童」は、90名～100名(3学級)程度で年々減少傾向にある

《高齢化》

平成27年(2015年)高齢化率;24%であったが、令和2年(2020年)11月は高齢化率;29.9%と増加傾向にある
4人にひとりが、3人にひとりの割合となりつつある

◆買い物弱者が増加している

《生鮮食品を購入できない》

徒歩でしか買い物に行けない高齢者の増加

近くに買うところがない(地域の中心部から南部にかけて商店がない)・・・見て・触って買いたい

◆交通網が不十分

《バスの便が少ない》

高齢化に伴う運転免許の返納に伴い、遠くに行けない等行楽を含む日常生活に支障がある
バスを利用したくても便が少なく、バス停まで遠く利便性が悪い
将来に不安あり

◆人口減少傾向にある

平成27年(2015年);15,100人 令和2年(2020年)11月;13,800人

山口県立大学生の動向も影響するが、減少傾向にある

空き家の増加と宅地開発の鈍化による

宅地開発鈍化の原因・・・**生活環境がよくない**ことから地区の評価が低い(魅力がない)

年少人口が増えない

◆若者の遊ぶ所がない

若いエネルギーを発散場所がない

バイト先がない

場所を求めて地区外へ流出する

地区に魅力がない・・・宮野離れに通じる

これらの課題解決策を『山口県立大学南キャンパス跡地利用』に求める

◆ 山口県立大学跡地をより有効に利用するために

周辺の道路等整備について

【JR宮野駅からのアクセス】
公共交通機関の有効利用を図るため、宮野駅からの利用を推進する

■ 駅周辺の環境整備を行う
(駅舎・トイレ・駐車場・市道)

【山口県立大学北キャンパスまでのアクセス】
市道「桜島三丁目1号線」を「(仮)大学通り」としての機能を持たす

■ 県道宮野大歳線から国道9号線信号機までを幹線道路として拡幅整備を行う
(歩道・車道)

【南キャンパス周辺道路拡幅】
桜島四丁目西桜島線及び南キャンパス東側道路の整備

■ 桜島四丁目西桜島線
桜島公園角からグラウンドまでの間を幹線道路として拡幅整備を行う
■ 南キャンパス東側道路を拡幅し一部路線変更



温泉発掘跡地の利用について

【資源の有効利用】

県立大学のグラウンドの西南端外の油川のほとりにあり、昭和48年（1973年）山口市内の「中国不動産（株）」によって開発された。

泉温19°のラドン含有の放射能泉で、動力揚泉により1日当り数百トン採水できるとされている。

しかし、現在までのところ温泉施設としては実現していません。

深さ230mであり、泉源は宮野温泉との共通性が指摘されている。

（宮野八百年史より）

開発された昭和48年は、第1次オイルショックにより高度経済成長に終止符が打たれる年で、好景気がもう少し続けば、「サクラの湯」として学生や地域の皆さんの憩いの場になっていたと想像できる。



- 採掘を再開し、「憩いの場」として足湯施設を設置する
多世代にわたる交流の場として活用できる

【 具 体 案 】 皆の“思い”

住みよい・若者が住みたくなる街づくり 宮野の活性化・市北部拠点づくり	備 考
「道の駅」・「朝市」設置	地域農業の活性化
ショッピングセンター	買い物弱者救済 スーパー・飲食店・ホームセンターを含む 複合施設 歩いて買い物に行ける 雇用の創設 学生・主婦等のアルバイト先確保 若者の交流 カフェ カルチャーセンター
バスターミナル設置	北部拠点としてバス機能を集約 高齢者の「足」を確保
ビジネスホテル誘致	県内外者の来訪
総合病院の誘致	高齢者医療対策 県立大生実習の場
専門病院誘致	小児科・眼科・皮膚科
図書館	

学園都市	高等学校誘致 専門学校誘致
市立幼稚園・保育園の移転	利用者の利便性確保 宮野幼稚園を「認定こども園」化
高齢者向け施設	老人ホーム 老人専用住宅
学舎(建物)の有効利用	耐震構造施工学舎の利用
多目的イベント施設	運動・販売・防災広場・展示会等
「足湯」設置	温泉跡地の再開発による交流の場づくり
公園	安心して遊べる公園 自然との融和 散歩・ウォーキング
複合体育施設	運動場・体育館
娯楽施設	映画館・ボウリング場・カラオケ・本屋

“投書箱”での「思い」について

令和元年8月から年末にかけて、地域住民から「山口県立大学跡地利用」について自由な意見を募りました。

■ 「健康パーク」施設

健康コーナー（健康教室）

運動コーナー（屋内ウォーキング場開設）

飲食コーナー（カロリー計算された食事の提供）

くつろぎコーナー（交流の場）

■ 宮野の中心として

食料品等のスーパーなどを誘致してほしい

日用雑貨店が欲しい

グラウンドも広い為マンション建築

寺内公園を有料駐車場に利用（列車通勤者のために）

■ 子どものための遊び場（プレーパーク）の設置

遊具がなくても子ども達がやりたいと思っていることが自由にできる遊び場

■ 「あそこで会おうやあ」「あそこにいこうやあ」「あそこで待ちよるよ」

すべての宮野人等が、だれでもそこに行って時を過ごせる場所

多世代の頼り、頼られ、ふれあい、学ぶ、いい出会い、体験ができる場所

■ 高齢者施設&障がい者施設の合体施設（老人介護施設も含む）

高齢者が障害を持つ子と一緒に過ごせる先進的な施設を建設する（県内外にアピールできる）

学生の実習の場ともなる（福祉・栄養学科）